



認知症の人と家族の一体的サポートプログラム 認知症関係者対象セミナー
2022年2月8日資料

認知症の人と本人の 一体的サポートプログラム ミーティングセンターin大牟田

大牟田市認知症ライフサポート研究会 梅崎優貴

福岡県大牟田市の概況



宮原坑(世界文化遺産)

かつては炭鉱で栄えた町
Omuta, once a city of coal mines
 (明治日本の産業革命遺産)

認知症の人の理解を深め、
 地域全体で支える
 しきみをつくり、
 認知症になっても、
 誰もが住み慣れた家や地域で、
 安心して豊かに
 暮らし続けることができる
 「まちづくり」をしています。

●大牟田市の人口 Total Population of Omuta City

約210,000人 ⇒ **110,590人**
 (1960年) (2021年10月)

●高齢者数 41,242人

高齢化率 Percentage of Aged Population
37.3% (2021年10月)

後期高齢化率 19.3%

※10万人以上の都市において
全国第2位(平成27年国勢調査)

大牟田市公式キャラクター
ジャー坊



Regional Dementia Care Community promotion project

認知症コーディネーター養成研修



Human resource development

人材育成～認知症コーディネーター養成研修

認知症の人の尊厳を支え、本人本位の認知症ケアや支援の牽引役、まちづくりの推進者の育成



もの忘れ予防・相談検診



Early diagnosis /early support

認知症の早期発見・早期からの適切な支援を目的として、もの忘れ予防・相談検診を実施

地域認知症サポートチーム



地域認知症ケアコミュニティ推進事業

小中学校の絵本教室
認知症サポーター養成講座

Enlightenment

子どもの時から、認知症の人の気持ちや支援について学ぶため、小中学校での認知症の絵本の読み聞かせとグループワーク



ほっと安心ネットワーク
～模擬訓練～

Simulated training

Regional development

16年間のSOSネットワークの模擬訓練を通して、認知症の人が安心して外出できるまちを目指す



「はたらく」の取り組み



車販売店の洗車



花屋さんの切り花



農園でお仕事



メール便の配達

まちかどレポート

大が田市に関する、さまざまな出来事や写真とともに紹介します。

本市の認知症などの取り組みが、また一歩前へ

「ヤマト運輸」と福祉連携の「まっぴい」と「ワイズ」が協力・連携し、福祉サービスを利用している人が福祉連携を行う取り組みが進められています。高次脳機能障害のある月井さんの女性は、今年の2月から通い、福祉連携を開始し、20週間の認知症予防プログラムを、職員と一緒に徒歩で施設周辺を歩きます。地域の人が心配ましの声を届けられたりするなど、顔の見えるいい関係ができています。また、元より本人のやりがいになっていて、「定数は多いので、費金を減ながらましくやっています」と話しました。6月20日は半歩の日で、歩道の整備から7月分の健診が完了され、周知の人から現場の声が聞かれます。世帯別に新しい取り組みに、積極的に注目が集まっています。



大牟田市ミーティングセンター 運営メンバー

令和2年度

大牟田市認知症ライフサポート研究会メンバー

・介護福祉士(小規模多機能型居宅介護) ・看護師(看護小規模多機能型居宅介護) ・社会福祉士(地域包括支援センター・病院連携室) ・認知症地域支援推進員

令和3年度

大牟田市認知症ライフサポート研究会メンバー

・介護福祉士(小規模多機能型居宅介護) ・看護師(急性期病院入退院支援室) ・社会福祉士(地域包括支援センター・病院連携室) 介護支援専門員(地域包括支援センター) ・認知症地域支援推進員

+地域包括支援センター職員

プログラム参加者への告知方法

令和2年度

チラシを使用し、開催の告知を運営メンバーが繋がりのある本人、家族を中心に行った。

本人交流会参加者

家族の会参加者

介護事業所の利用者、家族 など

令和3年度

2020年度呼びかけ団体+
認知症なんでも相談相談者
地域包括支援センターへの相談者 など



開催から継続 令和2年度

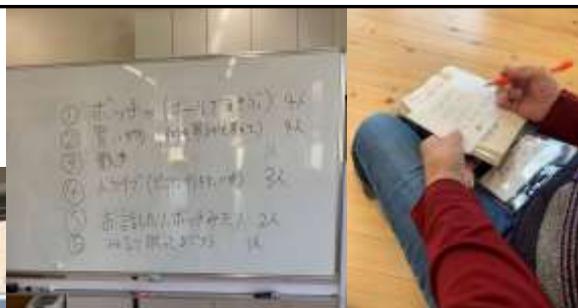
2020年度は小規模多機能ホームたかとの家隣接の「地域交流施設ふらむ」にて開催

豪雨災害や新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、当初6回開催予定のものが3回の開催となった。

回数	月日	本人	家族	備考
1	—	—	—	豪雨災害にて中止
2	9月25日	7	3	
3	10月30日	7	3	
4	11月27日	6	1	
5	—	—	—	新型コロナウイルス感染拡大にて中止
6	—	—	—	新型コロナウイルス感染拡大にて中止



令和2年度開催の様子 (ミーティング)



令和2年度開催の様子 (活動)



皆のご飯を買い出しに！



新幹線を見てみたい！



天気がいいから散歩へ



みんなでボーリングへ！



ポッチャで体を動かす！

令和2年度大牟田市ミーティングセンター 振り返り

- ・認知症本人及び家族の繋ぎ場所となることができなかった。特に家族参加が少なかった。
- 家族同士の出会いの場として参加を促していく。また、相談機能を強化する。
- ・認知症本人、家族の声を引き出すためのミーティング方法(付箋紙の使用やアンケート)を取り入れたが、本音を引き出すことができなかった。
- かしこまった場となることで緊張を与えてしまった。活動の中でのほうが声が多く聞かれた。
- ・活動を積極的に行うことで、満足度はあったが、本人同士、家族同士、一体的な時間を作ることがあまりできなかった。
- 一体的空間のなかでも、仕切りなどを使い空間を分けることや、運営側の意識合わせが必要。
- ・継続開催が難しかったため、継続して開催できる方法、場所の検討が必要。

令和3年度の開催と展開のポイント

開催主体を地域包括支援センターへ

・認知症ライフサポート研究会がバックアップ。日々、相談がある方をミーティングセンターへ繋ぎ、参加者の増加を狙う(特に家族)

開催場所を地域へ

・継続的に開催ができること、よりオープンな場所で行うことを視点とし、地域包括支援センターの繋がりのある地域拠点へ開催場所を変更。

開催場所を1か所から2か所へ

・本市の課題でもある「本人及び家族の繋がりの場所」を増やすために、開催場所を1か所から2か所へ。共に、地域包括支援センターを主とし認知症ライフサポート研究会がバックアップ。

令和3年度 大牟田市中心部地区ミーティングセンター

令和2年度からの継続型
・プログラムの充実、相談機能の強化 など



カフェ・IKEDAYA



令和3年度 大牟田市中央地区ミーティングセンター



参加者の増加に伴い
居酒屋くぬぎでの開催へ



令和3年度 大牟田市中央地区ミーティングセンター



もの忘れ専門医の参加により
相談機能強化



ミーティングセンター
活動メニュー

メニュー表を作成し
ミーティングの話題づくりへ
参加者の想いがメニュー表
へ追加されていく

メニュー表

メニュー以外でも
何でもどこでも行きたいところ食べたい物が
みんな考えて実行しましょう！！

<p>ミーティングセンター 活動メニュー</p>		<p>ショッピング</p> 	<p>ボウヤ</p> 	<p>普光寺</p> 
<p>お食事メニュー</p>	<p>カフェ</p> 	<p>おこのみやき ハンバーガー</p> 	<p>お寿司 中華</p> 	<p>ラーメン お弁当</p> 

令和3年度 大牟田市中央地区ミーティングセンター



令和3年度 大牟田吉野地区ミーティングセンター

新規開催型
参加者のキャッチ、認知症医療疾患センターとの連携 など

パン工房セリオ イートインスペースで開催



令和3年度 大牟田吉野地区ミーティングセンター



中央地区と連携し、
本人同士の出会い
家族同士の出会いを！

同地区にある認知症
医療疾患センターとの
連携を図っていく！

今後は、より、本人同
士、家族同士、一体的
な時間、空間づくりを！

大牟田市ミーティングセンター 令和3年度開催状況

中央地区ミーティングセンター

回数	月日	本人参加	家族参加
1	9月22日(水)	6	2
2	10月22日(火)	8	4
3	11月26日(金)	8	1
4	12月24日(金)	7	2
5	1月28日(金)	3	2

吉野地区ミーティングセンター

回数	月日	本人参加	家族参加
1	10月5日	2	3
2	11月2日	2	1
3	12月15日	1	1
4	1月26日	2	1

モデル事業 認知症の人と家族の一体的サポートプログラム 「ミーティングセンター」を通して

本人の声

- 一人で過ごすより、みんなで過ごす方が幸せ。
- 動物園には何十年ぶりかに来た。一人では来ない。みんなと行くと決めたから来たしやっぱり楽しい。
- 家では食欲が出ないけど、みんなで食べるとおいしいし全部食べてしまうね！
- 自分たちで話して決めることができるのは楽しい！

家族の声

- 一緒に連れ出してくれて助かる。デイサービスを進めたら行かないと怒るから困っていた。ここなら、一緒に来ても自分も楽しい。
- 同じ悩みを持つ人に会いたかった。
- 相談できる人が欲しかったし、専門的な話を聞けるのはありがたい。
- ここに来るとあの人も楽しそうで自分も嬉しい気持ちになる。

当事者は当事者と出会いたい！
楽しく過ごしたい！
活動が楽しいのではない！
皆で考え皆でその目的に向かうことが楽しいし、だから達成感がある！
プロセスが大事！

家族は同じ悩みを抱える家族との出会いを求めている！
先輩家族や専門医、専門職からのアドバイスから、学ぶ場所になっている！
傍で本人が豊かに過ごしている姿から捉えなおす場となっている！
出会い直しが大切！

モデル事業 認知症の人と家族の一体的サポートプログラム 「ミーティングセンター」を通して

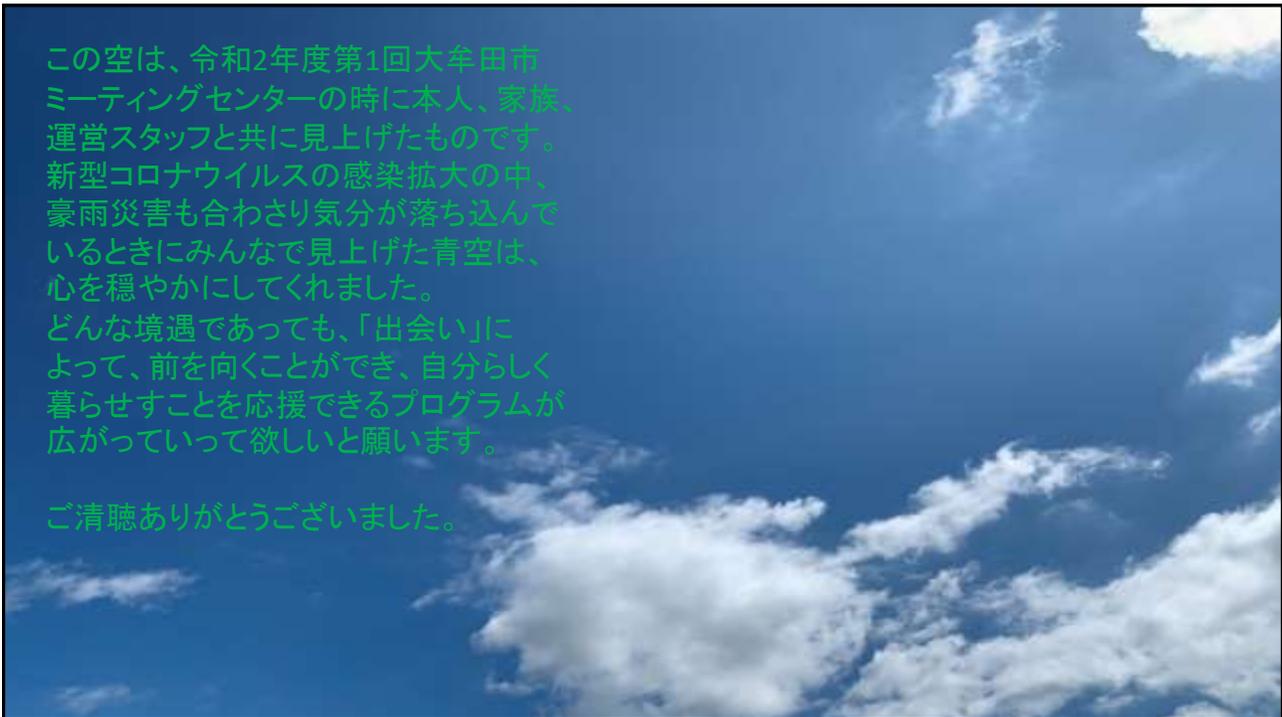
こんなエピソードとの出会い

・若年性認知症の診断を受けた男性とその妻のサポートがないか、中央地区地域包括支援センターへ相談があり、ミーティングセンターへ繋いだ。当事者である男性は、デイの利用を始めていたが、妻も一緒にデイに行かなければいけないような状況。妻は、中央地区ミーティングセンターで専門医や他の家族と出会い、想いを吐き出すことができた。特に、他の家族からもらった「きつい時はきついって言うていいのよ」という言葉に心が救われた。ショッピングセンターで、他の当事者や運営スタッフと楽しそうに話している夫を見て、昔の夫を思い出した。住まいから近い吉野地区ミーティングセンターへの参加誘いを行った。次の、吉野地区ミーティングセンターに来られた時に、日本地図を2人で広げられた。自宅で、二人で、これまで旅行したところを写真を振り返り記入したものであった。「認知症だからとあきらめていたけど、まだ、いったことのないところに行こうという話になりました」と笑顔で話してくださいました。



モデル事業 認知症の人と家族の一体的サポートプログラム 「ミーティングセンター」を通して





この空は、令和2年度第1回大牟田市
ミーティングセンターの時に本人、家族、
運営スタッフと共に見上げたものです。
新型コロナウイルスの感染拡大の中、
豪雨災害も合わさり気分が落ち込んで
いるときにみんなで見上げた青空は、
心を穏やかにしてくれました。
どんな境遇であっても、「出会い」に
よって、前を向くことができ、自分らしく
暮らすことを応援できるプログラムが
広がって欲しいと願います。

ご清聴ありがとうございました。